

◆ 立川都税事務所長賞 ◆

「ふるさと納税のあり方」

東久留米市立南中学校 3年 高橋 絹

最近、「ふるさと納税」という言葉をよく耳にします。ふるさと納税とは、いわば自治体への「寄附」で、生まれた故郷や応援したいと思う自治体へ寄附をすることができ、その返礼品として地域の誇るものが送られてくるというものです。多くの方は、欲しい返礼品があるからと、寄附をしています。それに、ふるさと納税をすると住民税と所得税から一定の控除を受けることができるのです。そんな多くのメリットのあるふるさと納税を利用する人は近年急速に増加しています。

しかし、ふるさと納税は本当に良い事だけなのでしょうか。私は、先日、インターネットである記事を読みました。それは、ふるさと納税による他の自治体への寄附額が年々増加している世田谷区で、2023年度の流出額が過去最大の約97億円に上ったというものです。区は返礼品を拡充して寄附額を前年度から倍近く増やすことに成功したが、流出額との差は依然大きいそうです。流出額がもし150億円を超えたら区は耐えられるわけがなく、事態は深刻化していると書いてありました。

私はこの記事を読んで、自分の生まれ故郷や応援したい自治体を支援するのは良い事だと思うけれど、それによって今自分が住んでいる地域が困るとするのはおかしいなと思いました。住んでいるならば、その地域を優先して支援しなければならないと私は思います。そう思った私は、どうすれば実現できるのだろうかと考えました。今自分が住んでいる地域には義務として税金を払う。それにプラスしてふるさと納税を利用する。私はこれが一番良い方法だと思います。ふるさと納税を利用する多くの方は返礼品が目的です。ならば、普通の買い物のような感覚でふるさと納税をすれば良いのではないのでしょうか。そのお金は自治体を支援するためのお金となるので自治体側にもメリットがあります。

私にとって、ふるさと納税はあまり身近ではありません。ですが、私は私の地元が大好きなので、応援したいという気持ちはよく分かります。日本という国がそんな気持ちの人であふれているのならばその気持ちを最大限活かし、どの側から見てもメリットが大きいような方法を見つけるべきです。日本という小さな島国の支援は、日本を愛しているという国民の自国愛によって成り立たせることが一番の良い方法だと私は思います。

税金は私たちにとって生きていく上で守らなくてはならない義務の一つです。だからこそ私たち国民は税とうまくつき合っていく方法を毎度考えなくてはなりません。